

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・35〉	いわき市立好間第二小学校
〈実施日〉	平成27年 8月26日(水)	平成28年 7月12日(火)
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。	
	1 理科	② 学級活動
	③ 総合的な学習の時間	4 その他()
〈実践内容〉	◎外部講師による放射線講座	
	(講師) いわき明星大学教養学部 特任教授 石川哲夫先生	
	(内容) 科学的な見地からの、放射線に対する理解や今後を見通した対応について。	
	○放射線に関する学習の必要性について	
	・ 原発事故の概要と事故後の様子について知る。	
	・ 中国の原発で万が一事故が起きた場合の、日本への影響について理解する。	
	○身の回りにある放射線について	
	・ 日常的にも自然界の放射線をあびていることを知る。	
	・ 放射線は、地面や空気、食べ物などから出ていて、わずかだが食品から体内に放射性物質を取り入れていることを知る。	
	・ カリウムが含まれている食品の放射線の値が、やや高くなることを知る。	
	○放射能と放射線の違いについて	
	・ ロールプレイングによる放射性物質、放射能、放射線の違いについて理解する。	
	・ 放射性物質から放射線が飛んでいく様子をボールに見立てて理解する。	
	○放射線の遮蔽実験	
	・ 放射線を通す物と通さない物について理解する。	
	○放射線の飛跡観察	
	・ 目には見えない放射線を、実際に見る。	
〈成果〉	○ 身近にも放射線という物があり、危険な物とそうでない物があることについて理解を深めることができた。	
	○ 放射線から身を守る方法(放射性物質から距離をとること、放射線を受ける時間を短くすること、コンクリートなどの建物の中に入ること)について知ることができた。	
	○ 放射線に対する正しい知識を、得ることができた。	
〈課題〉	● 放射線に対する様々な考えや意見が世間にはあり、児童や保護者に対して正しい知識を理解してもらうためにはどうしたらよいか、指導する内容は本当に正しいと言い切っているのか、悩むときがある。	
資料作成担当者職(講師)氏名	(星野 史枝)	学校電話番号(25-2549)

【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)